

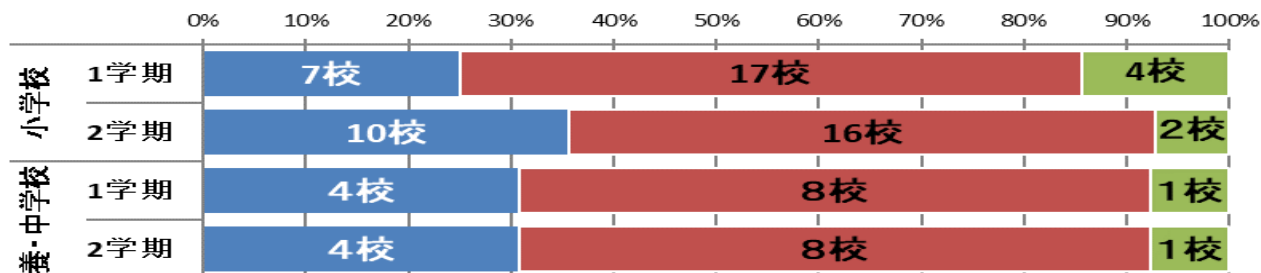
1 いじめ防止対策改善プログラム自己点検シート（まとめ）について

(1) アンケート項目別集計結果について

※やや課題がある、課題があったとした学校からの意見を併記  
《各項目の4評価の割合》

できた (4点)	おおむねできた (3点)	やや課題がある (2点)	課題がある (1点)
-------------	-----------------	-----------------	---------------

①互いに認め合い、支え合い、助け合う仲間づくりができたか。



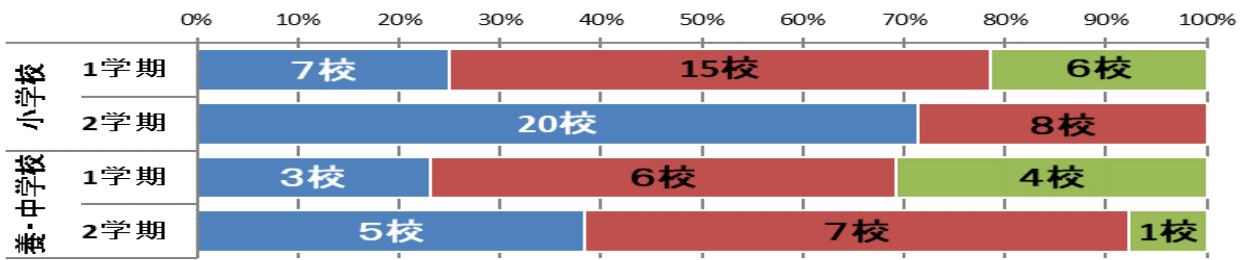
〈改善策と今後の予定〉

- 2年連続して特別支援学級児童へのいじめ事案が起こった。このことは偶然ではないことを全職員で共通認識し、特別支援学級担任による交流学級児童への「特別な支援を必要としている児童への理解」を深める授業を3学期に計画している。
- 出来る限り児童が主体となり、児童同士がつながっている活動を実施しているが、新型コロナウイルス感染症予防の関係上、例年に比べ十分には出来ていない。
- 未然防止への取組として、自校のいじめ防止対策改善プログラムに基づく取り組み内容及び目的について共通理解は出来ている。生徒が自己有用感を持ち支え合う活動をさらに充実させたい。

〈各学校の特色ある取組〉

- ◆児童会が主体となって、いいところ見つけの活動を行い、居心地の良い仲間づくりを進めた。
- ◆児童会のスローガンを「一人ひとりのいいところを分かり合える学校」とし、クラスごとに「今日のキラキラさん」の活動に取り組み、友達のいい所をメッセージカードに書いて伝える活動を実施した。
- ◆縦割り班活動として「なかよし交流会」を6年生が企画し、全校生で協力して楽しく活動し、絆を深めた。
- ◆2学期初めに教師から「いじめをしない、させない、見逃さない」宣言をし、いじめに関する掲示物を全教室に掲示した。
- ◆3密に配慮しつつ、異学年交流の取組を行い、高学年から低学年の触れ合いを増やし、協同性の向上を図った。
- ◆ユニット単位での地域で合わせたあいさつ運動や、児童会・生徒会を中心とした学校単位でのあいさつ運動に取り組んでいる。
- ◆音読集会やみんな遊び（なわとび集会など）を実践し、仲良く楽しみ、活躍する場を作っている。
- ◆6年生が主体となってパラリンピック大会（ボッチャ、ゴールボールなど）を企画し、1年生から6年生までの混合チームで実施するなど縦割り活動を行った。
- ◆委員会活動による誕生日カード作りを行った。

②命や人権を尊重する豊かな心を育むことができた。



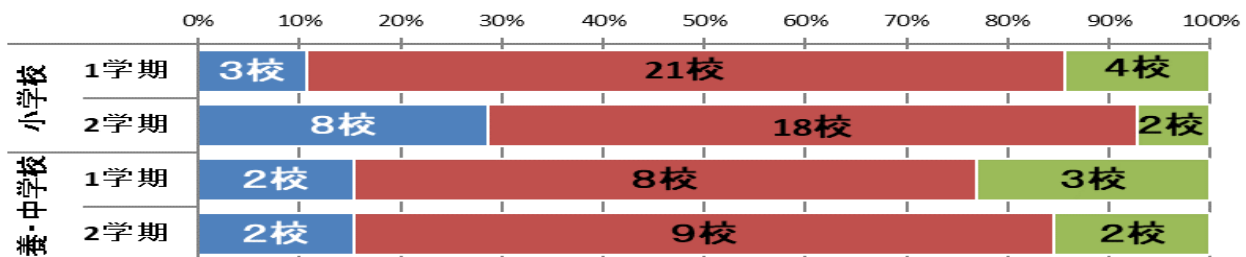
〈改善策と今後の予定〉

○道徳教育の質的転換がまだ途中であると考えられるため、授業力の向上を進める。

〈各学校の特色ある取組〉

- ◆毎月1度「道徳デー」として、兵庫県版副読本「心シリーズ」を児童が家庭に持ち帰り、保護者と一緒に話し合う機会を設けている。命や人権を尊重する豊かな心を育めるよう教材を精選している。
- ◆「いじめ防止啓発」児童会役員が各教室を回り、自分たちで作成した紙芝居を活用して、「いじめの傍観者」にならず、小さいいじめでも見逃さないアンテナを持つように訴えた。
- ◆「シトラスリボン運動」として、新型コロナウイルス感染者、濃厚接触者が身近に存在した場合であっても、登校できた時には「お帰り」「ただいま」と言い合える関係、および人権感覚を高めていこうと、6年生から全児童に発信した。
- ◆学校長による医療従事者や感染者への配慮や新型コロナウイルス感染症における新生活様式・シトラスリボン運動の話を行った。
- ◆命の集会を開催した。
- ◆縦割り班活動、友達のいいところみつけ、新型コロナウイルス感染者差別の根絶についての授業を実施した。

③ 家庭や地域への働きかけができたか。



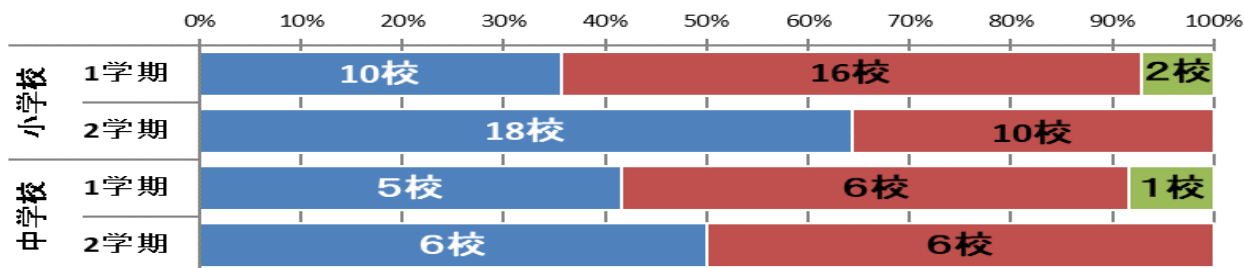
〈改善策と今後の予定〉

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、授業参観は行えなかった。HPを通じて取組を発信している。
- 9月の夏休み作品展は実施したが、11月に予定していたオープンスクールは感染予防のため中止した。今年度の授業参観が出来ていないので、3学期には実施方法を工夫して授業の様子を保護者・地域へ適切に情報提供したい。
- 市教委、県教委、文科省からのリーフレットについては、通知があるごとに啓発を図っている。

〈各学校の特色ある取組〉

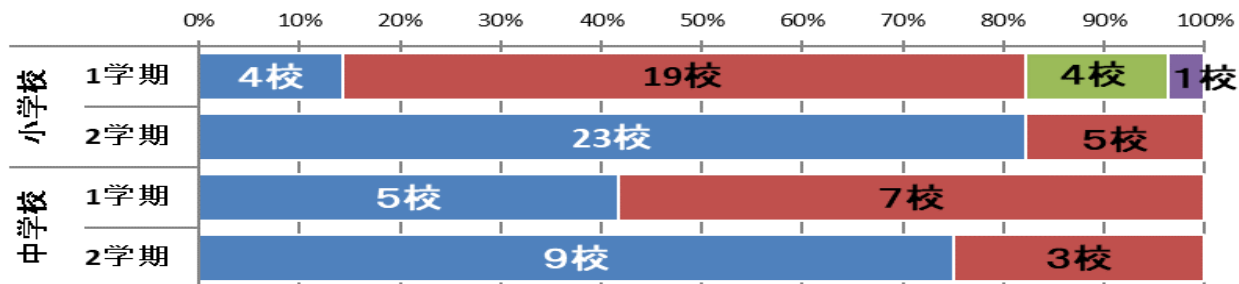
- ◆新型コロナウイルス感染症対策が必要な中で、保護者や地域の方々に学校の様子を直接見ていただくことができない。そのため、HPやメール配信を活用して、積極的に学校や児童の活動の様子について情報発信をしている。また、PTA役員の方々と定期的に話をする機会を持ち、相互理解に努めている。
- ◆新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、前年度よりも保護者が参観する機会等が減っているため、学校のブログを更新し、保護者に情報提供している。11月のアクセス数が14,000件を超えていて、保護者も高い関心を寄せている。
- ◆学校を支援する地域ボランティアと協力し、学期ごとに放課後や登下校時の子どもたちの様子について情報交換会等を行い、子どもたちの実態把握に向けて連携を図っている。来年度から学校運営協議会との連携へ移行する計画としている。
- ◆学校だよりや参観日や教育相談等、保護者と関わる機会を多く作った。
- ◆2学期には地域ごとに来校日を分散するなど密を避ける形で参観日を設定した。

④ 学校環境適応感尺度「アセス」が適切に活用できているか。 ※加古川養護学校を除く



※すべての学校が評価点3以上

⑤ 児童生徒の相談行動の促進ができているか。 ※加古川養護学校を除く

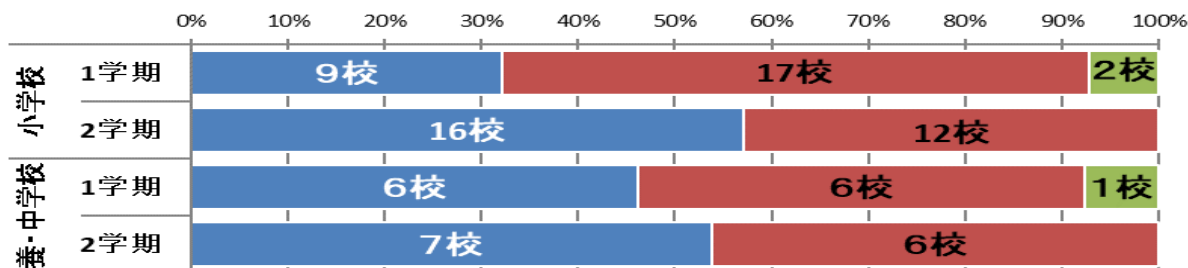


※すべての学校が評価点3以上

〈各学校の特色ある取組〉

- ◆児童の心の安定をはかる取組として手紙相談を行った。児童からポストに入れられる手紙のあて先はどの先生でもよく、児童から送られた手紙に対して、丁寧に返事を書いて返すようにした。
- ◆「〇〇っ子安心シート」をアセス、心の相談アンケートが無い月に実施し、児童の直近の様子を把握できるように努めた。
- ◆いじめの未然防止、早期発見のために、年2回の心の相談アンケートだけではなく、月に1回程度は子どもたちの心や体の様子を確認するために「心の健康チェック」というアンケートを実施している。
- ◆1学期同様、学校独自のアンケートを実施し、何か問題があった場合について、情報共有を積極的に行うようにしている。

⑥ 双方向（学校家庭間）からの実態把握と情報共有がなされているか。

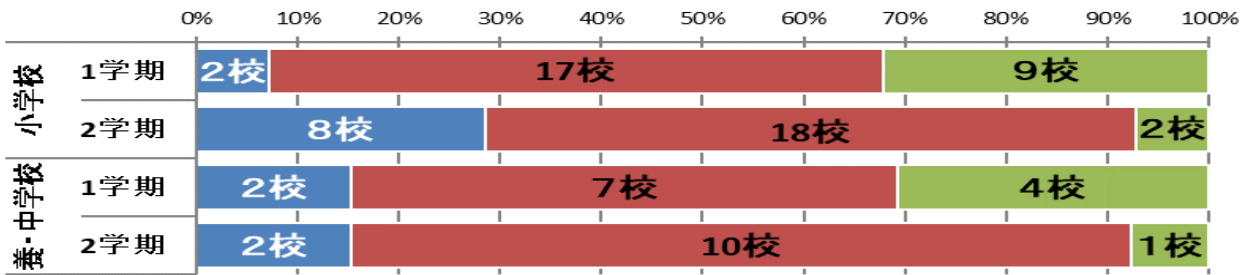


※すべての学校が評価点3以上

〈各学校における特色ある取組〉

- ◆教育相談時に、保護者が担任以外とも相談できるようにした。（保護者への周知は、HPやメールで行った。）

⑦ 研修の充実による教職員の資質と指導力の向上がなされているか。



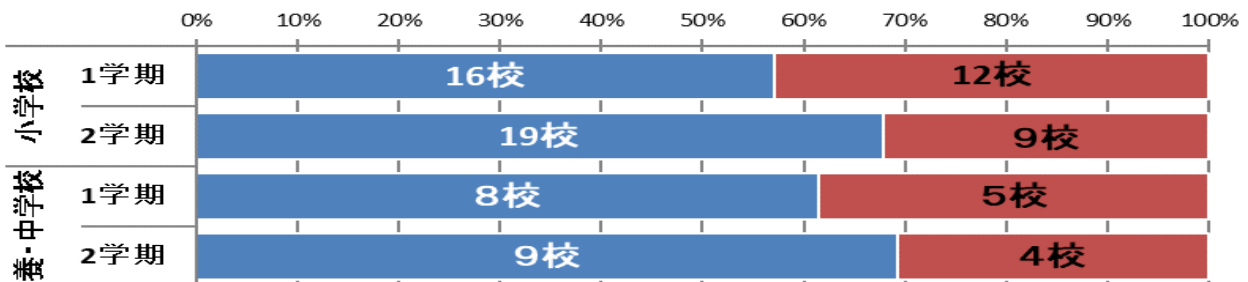
〈改善策と今後の予定〉

- 教職員の数が多く、密を避けるため積極的に校内研修を行うことはできなかったが、新型コロナウイルス感染症に伴う県や市の状況を鑑みつつ、職員を分散しての実施や対象を絞った形での研修等を計画・実施したい。
- 新型コロナウイルス感染症の影響だが、縮小した形での研修を実施している。
- 研修により指導力向上を図っているが、今後さらに充実させ職員の実践力を高めたい。
- 校外研修への参加ができないので、校内でマニュアルを確認し、対策委員会としての取組を進めている。

〈各学校における特色ある取組〉

- ◆毎月シリーズ研修（いじめ認知、いじめ対応、事例研修等）を行い、共通理解を図っている。
- ◆いじめ対策の確認や検証、生徒指導に関する話し合いを行い、危機管理意識の向上を図っている。
- ◆協同的探究学習やすべての児童が参加・活躍できる「わかる授業」作りを進め、達成感や成就感、自己有用感を育んだ。

⑧ 「チーム学校」による組織的な対応がなされているか。

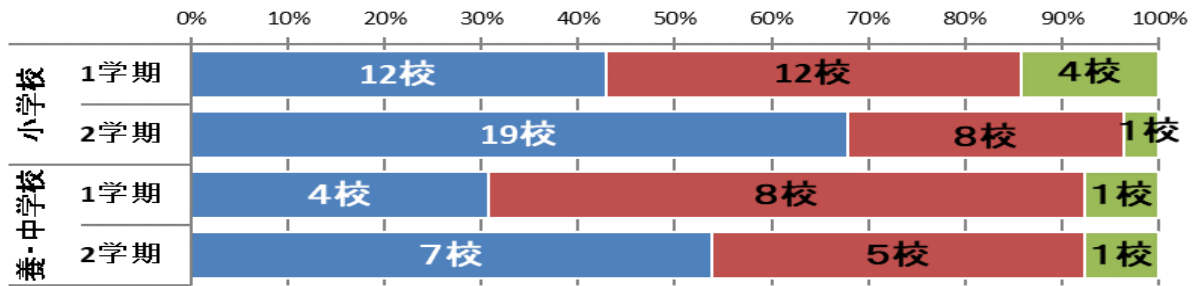


※すべての学校が評価点3以上

〈各学校における特色ある取組〉

- ◆全職員が全校児童の顔写真を所有し、「みんなでみんなを」をキーワードとして、児童理解に努めている。
- ◆S S Wを活用し、不登校（登校しづらい）児童とその保護者へ各種福祉サービスへの接続を行うため関係機関へ一緒に行ったり、家庭訪問を通じて保護者の困り感に寄り添い個々に応じたサポートを行ったりしている。
- ◆理由が明確でない欠席の児童へは電話連絡、3日以上欠席の児童へは理由が明確でも家庭訪問で様子を見に行くよう、全職員共通理解のもと学級運営にあたった。
- ◆月に1回、職員会議後に児童についての情報共有を図る時間を設定している。問題行動やいじめに関わる児童だけでなく、様子が気になる児童についても職員全体で共有しておくことで、問題の未然防止につなげようとしている。また、心の相談アンケートが無い月にも、学校独自の「心のアンケート」を実施して、問題行動やいじめの未然防止や早期解決につなげようとしている。
- ◆小規模校で児童数・職員数が少ないため、全児童を全職員で見守るという体制を作っている。具体的な取組としては、毎月の職員会にて児童の抱える課題を職員間で共有し、児童への支援の方法を検討している。

⑨ 関係機関との連携を強化した取組がなされているか。



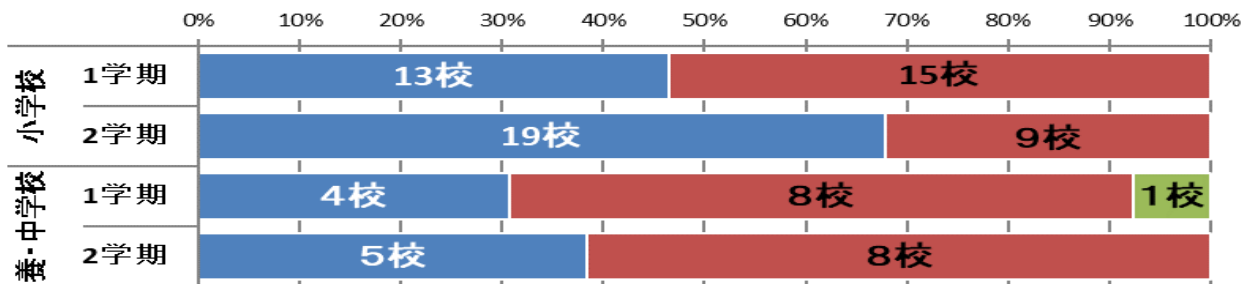
〈改善策と今後の予定〉

- 毎年、インターネットトラブル防止講座を開催していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施を見送った。3密を避けるため、講演をDVDへ録画し視聴による防止講座の受講を検討し、関係課と調整を試みたが今年度は断念した。来年度の実施に向けて日程調整等は完了している。
- 2学期はコロナ過のため、関係機関による情報モラル教室を十分に持てなかった。教員による様々なアプローチで対策を講じているところであるが、SNSトラブルは後をたたない。生徒用パソコンの配備を機に、より具体的な情報モラル教育となるよう努めていく。

〈各学校における特色ある取組〉

- ◆民生・児童委員との情報交換会を学期ごとに開き、放課後等の児童生徒の様子や気になる家庭等について情報提供を頂くなど、連携をお願いしている。

⑩ 推進体制・検証体制を整える取組がなされているか。



※すべての学校が評価点3以上

2 学校生活に関するアンケート（アセス）の結果と取組状況について

《実施時期 令和2年度2学期末（12月末）までに各学校の実情に応じて実施》

(1) アンケート実施率について

	全体（40校）									
		小学校（28校）						中学校（12校）		
		3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年		
1学期実施対象人数	16,612	9,647	2,408	2,399	2,439	2,401	6,965	2,343	2,307	2,315
（実施率）	99.0%	99.6%	99.5%	99.7%	99.8%	99.4%	98.3%	99.1%	97.7%	98.0%
未実施人数	159	40	12	7	6	15	119	20	52	47
2学期実施対象人数	16,618	9,652	2,407	2,402	2,440	2,403	6,966	2,340	2,309	2,317
（実施率）	98.5%	99.2%	99.5%	99.6%	99.2%	98.7%	96.7%	97.5%	97.3%	96.8%
未実施人数	245	73	11	10	20	32	172	35	62	75

※アンケート実施率が100%でないのは、特別支援学級に在籍しアセスの実施がなじまない児童生徒、または、長期欠席等により、学校での実施ができない児童生徒がいるため

(2) 学校生活に関するアンケート（アセス）実施後の対応について

事後対応の内容	小学校	中学校
学級内分布票から判る支援の必要な子どもについて学年で情報共有できている	100%	100%
学級内分布票から判る支援の必要な子どもについて個別支援をしている	100%	100%
非侵害的関係の値が40未満（要支援）の子どもについて確認をしている	100%	100%

(3) 対象者及び結果（令和2年度2学期） ※ 1学期と比較して増加

	要支援レベル1						要支援レベル2				要支援レベル3				2学期 実施人数
	1学期		2学期		改善人数	改善割合	1学期		2学期		1学期		2学期		
	人数	割合	人数(新規)	割合			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
小学校	73	0.8%	35 (29)	0.3%	67	92%	392	4.1%	333	2.8%	776	8.1%	631	6.6%	9,579
3年	36	1.5%	11 (9)	0.5%	34	94%	129	5.4%	96	4.0%	247	10.3%	193	8.0%	2,396
4年	16	0.7%	11 (9)	0.5%	14	88%	130	5.4%	100	4.2%	194	8.1%	142	5.9%	2,392
5年	9	0.4%	9 (9)	0.4%	9	100%	64	2.6%	63	2.6%	142	5.8%	116	4.8%	2,420
6年	12	0.5%	4 (2)	0.2%	10	83%	69	2.9%	※74	3.1%	193	8.1%	180	7.5%	2,371
中学校	17	0.2%	10 (6)	0.1%	13	76%	170	2.5%	190	2.8%	391	4.3%	351	5.2%	6,794
1年	3	0.1%	※4 (4)	0.2%	3	100%	35	1.5%	※64	2.8%	103	4.4%	※114	4.9%	2,305
2年	10	0.4%	4 (1)	0.2%	7	70%	63	2.8%	※64	2.8%	184	8.2%	132	5.7%	2,247
3年	4	0.2%	2 (1)	0.1%	3	75%	72	3.2%	62	2.7%	104	4.6%	※105	4.5%	2,242
計	90	0.5%	45 (35)	0.2%	80	89%	562	3.4%	523	2.8%	1,167	7.0%	982	5.2%	16,373

- ・要支援レベル1…学習、対人関係ともに要支援領域で、生活満足度も低い児童生徒
- ・要支援レベル2…学習、対人関係のどちらかが要支援領域で、生活満足度も低い児童生徒
- ・要支援レベル3…学習、対人関係は適応領域だが、生活満足度が低い児童生徒

《1学期と比較して顕著に変化した部分》

- 小学校3年生において要支援レベル1の児童数が約3分の1に減少し、要支援レベル2と要支援レベル3の児童においても減少している。1学期の結果を受けて、教師の見守り体制が手厚くなったこと、2学期を経て学校生活に慣れてきたことも要因と考えられる。
- 中学校1年生において、要支援レベル1、2、3の生徒数が増加傾向にある。新型コロナウイルス感染症に伴う4月、5月の長期臨時休業やその後、様々な活動が制限される中で、小学校と比較して学習面や部活動等を合わせた生活面の違いなどにうまく順応できなかったことが要因と考えられる。
- 1学期要支援レベル1の児童生徒数は90名であったが、このうち2学期のアセスにおいても要支援レベル1であった児童生徒数は10名であり、80名については改善が見られる状況である。

(4) 非侵害的関係の値が要支援領域の児童生徒について

(アセス実施数を分母として非侵害的関係の値が要支援領域の児童生徒の割合を算出)

＜小学校＞

学年	3年生	4年生	5年生	6年生
1学期の人数(割合)	113 (4.7%)	68 (2.8%)	65 (2.7%)	60 (2.5%)
2学期の人数(割合)	64 (2.6%)	66 (2.7%)	59 (2.4%)	34 (1.4%)
昨年度2学期の人数(割合)	83 (3.5%)	68 (2.8%)	121 (5.0%)	113 (4.6%)

- 1学期と比較するとすべての学年で要支援児童は減少した。
- 小学校3年生及び小学校6年生において要支援児童数は半減した。
- 昨年度同時期と比較するとすべての学年で要支援児童は減少した。

＜中学校＞

学年	1年生	2年生	3年生
1学期の人数(割合)	31 (1.4%)	49 (2.3%)	35 (1.5%)
2学期の人数(割合)	36 (1.5%)	31 (1.3%)	34 (1.5%)
昨年度2学期の人数(割合)	47 (2.0%)	50 (2.2%)	43 (1.9%)

- 1学期と比較し、1年生では5件の増加。一方で2年生では18件の減少となった。
- 令和元年度同時期と比較するとすべての学年で要支援生徒は減少した。

## (5) 支援の必要な児童生徒への具体的ななかかわり事例

### ①担任による学習面での支援

- ・授業中の個別の声掛けを行い、学習の支援や指示の確認、学習の見通しが持てるように支援を行った。
- ・個人内評価により、個々の成長を積極的に認め、自己肯定感を高めた。
- ・教師に注目できるよう、席の配置を工夫し、作業前に個別に声をかけ見通しを持たせることで一斉授業で遅れることが減っている。
- ・個別指導計画を作成し、関係教師を含めて連携を図りながら継続的に支援を行った。

### ②担任による生活面での支援

- ・休み時間の児童の観察や教師からの声掛け等、関わりを持つ時間を増やし、コミュニケーションスキルの向上をサポートした。
- ・自尊心が低く、愛着の形成が不十分な児童に対して、自主ノートを活用した担任とのやり取りを継続している。
- ・本人が気軽に話せる子を近くの席に配置するなど、友人サポートを高めるための環境整備と機会づくりを行った。
- ・本人の良いところを教師が取り上げ、全体に返すことで回りの子が良いところを認められるようになり、本人が注意を受けることが減った。
- ・絵が得意であることからそれを生かせる係活動に取り組み、友達とつながる場を作るとともに、自分に自信を持たせるような支援を行った。
- ・別室を活用し、クールダウンさせた後、時間をかけて自分の行動や嫌だと思ったことなどを順に整理していくことで、感情が高ぶることが減ってきた。

### ③チームによる支援

- ・学習支援員等による計画的な学習サポートを行った。
- ・自分に自信をもてない児童生徒に対して担任をはじめ関係教師から積極的に前向きな言葉がけを継続的に行った。
- ・クールダウンを行うため、保健室の利用について児童と養護教諭・担任の間で約束事を決め、対応している。
- ・家庭への支援が必要であることから、SSWと連携し、SSWが中心となって登校サポート等を含め、児童・保護者へ関わり対応している。

## (6) 成果・課題

各小・中学校とも「アセスハンドブック」に基づいて、アセスの結果をもとに複数教員（学年が中心）によって要支援児童生徒のアセスメントを行っている。その際には、個人検討シートを活用し、要支援児童の現状把握と教育的リソースについて検討を行い、支援の方向性と方法を決定している。結果として、1学期のアセスにおいて要支援レベル1であった児童生徒は約89%の改善率となり、教員による手厚い支援と見守りが行われている。

また、非侵害の関係の値が要支援の児童生徒についても、小学校において、1学期と比べ減少している。アセスと合わせて、アンケートや教育相談を行うことで、児童生徒の内面理解からいじめの未然防止、早期発見・早期対応につながるという意見は多数の学校から上げられている。

一方で、中学校1年生においては、やや要支援領域の生徒が増加しており、注視していく必要がある。各学校での聞き取りの際には、新型コロナウイルス感染症の影響から行事等が削減され、実際に体験し先輩の姿を見ることで、動きや迫力、すばらしさをイメージできるのだが、そういう機会が1年生には少なかった。このことによって、中学生としての気持ちの切り替えができていくことなどの影響について意見が上がっていた。

## 3 心の相談アンケートについて

### (1) 実施時期 2学期中【各小・中学校で実施時期を決定】

### (2) 対象者数（小学校3年生～中学校3年生）

	小学校（28校）	中学校（12校）	全体（40校）
1学期 心の相談アンケート実施人数（実施率）	9,671(99.3%)	6,823(97.7%)	16,494(98.6%)
2学期 心の相談アンケート実施人数（実施率）	9,617(99.0%)	6,730(96.7%)	16,347(98.0%)

#### 4 教育相談について

##### (1) 教育相談結果 【対象：小学校1年生～中学校3年生まで】

		小学校(28校)	中学校(12校)	全体(40校)
第1回	教育相談実施人数(実施率)	13,799(97.8%)	6,795(97.3%)	20,594(97.6%)
	いじめに関する情報件数 (内、認知件数)	502 (137)	100 (19)	602 (156)
第2回	教育相談実施件数(実施率)	11,914(84.5%)	5,303(76.2%)	17,217(81.8%)
	いじめに関する情報件数 (内、認知件数)	566 (120)	68 (55)	634 (175)

※第2回の教育相談は、各小・中学校の判断により、対象者を絞って教育相談を行うこととしており、特に今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う授業時数の確保等の観点から、全児童生徒を対象として教育相談を実施した学校が小学校では22校、中学校では10校となり、実施率は1回目に比べ低下している。

##### (2) 実施できなかった児童生徒への対応

- ・不登校児童生徒へは電話連絡及び定期的な家庭訪問を実施した。
- ・児童生徒の状況に応じて対応した。

##### (3) いじめ対策委員会を中心とした組織による対応(各学校への聞き取りから)

- ・月1回定期的に開催している。(学校規模により職員会等を兼ねる)
- ・事案に応じて臨時招集し、ケース会議、対応方針等について協議した。
- ・協議内容、方針について職員会議等を通じて全職員で共通理解を図った。
- ・アセスの「非侵害的関係の値」が低い子どもの情報共有と対応について検討している。

##### (4) 実施による効果(各学校への聞き取りから)

- ・教育相談を行うことで、アンケートだけでは見えない心情が読み取れ、より掘り下げて見取ることができることにより、小さな気づきから初期対応を行い、深刻な問題になることなく対応することができた。生徒からの信頼が増しているように感じる。
- ・児童と1対1で話し合う機会は、いじめ事案の未然防止に繋がり重要だと考える。
- ・全員に対して公平に相談の機会があることで、なかなか話しにくい児童にも話すきっかけとなっている。
- ・小学校において、1年生の実態把握に特に効果的であった。
- ・放課後の状況、家庭の悩み、部活の悩み等を把握することにも役立っている。
- ・気になったことがあれば管理職に報告し、事案発生時には学校全体で早急の対応が可能になった。
- ・普段の見取りで、何も問題がない子どもと話す機会を持ち、心配がないことの確認ができた。また本人に自覚がなくても話の中で別の子の問題行動に繋がることも発見できた。
- ・家庭と教育相談を受けての情報共有をすることができるので、小さいことでも家庭と連携が効果的にできる。
- ・困ったら子どもたちから担任に相談に行っており、「いつでも相談できるよ」という風土を作ることができる。
- ・教職員が傾聴を心掛けるようになった。

##### (5) 成果・課題

学校規模にもよるが、時間の捻出等課題はあるものの、それ以上に児童生徒一人ひとりと教育相談を行うことの有効性をすべての学校が認識している。また、定期的な教育相談の大きな目的である相談行動の促進においても、教師と児童生徒との距離感が縮まったことや日常の教師への相談が増えていることなど実感を伴った肯定的な報告が挙げられている。教育相談等で出てきた情報を担任一人で抱え込まないようにいじめ対策委員会をはじめ職員間で共有し迅速に対応することの意識付けを今後も図っていく。